

冬の泉北教研

子ども理解と学習指導を結びつける

小学校三年生になってもひらがなの読み書きがおぼつかない子どものことを思い浮かべてみよう。

その子は、おそらく、ひらがなの問題だけでなく、そこから発生する様々な生活上の不便・不安、周囲からネガティブな評価を受け続けてきたことによる精神的な「傷」を抱えて生きているであろう。教師が、その子を支えようとすれば、ひらがなの問題への対処だけでは不十分であろう。そうしたやり方だけでは、その子の「傷」をかえって深くしてしまうことさえ起こるかもしれない。

必要なのは、その子の不便・不安、「傷」に思いをめぐらし、その子が安心して生活感情を表現し、他者と交流し、傷ついた「自己」を回復していく過程を

支えるような、全体的な援助・教育の構想であり、それを粘り強く実行に移すことである。ひらがなの教育・訓練も、そうした全体的な構想の有機的な一部分として、絶えずその質を点検し直しながらか進めていくことが重要である。そもそも、教師が、子どもと出会って、教育活動の計画を描き、教育目標を描くということは、こうした創造的で複雑な精神作業である。

(田中孝彦氏：2007年3月教育科学研究会3月集会の発題レジュメより)



講師：田中 孝彦氏

1945年北京で生まれる。
東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。東京大学、東京経済大学、北海道大学、都留文科大学などを経て、現在武庫川女子大学大学院教育学研究所教授。教育科学研究会委員長。

2月1日(土) 14:00～16:00 (開場13:30)

和泉コミュニティーセンター (和泉市役所横)

参加費無料 ※教育関係の書籍販売あります

足と友

渡利 真
Watari Makoto



ぼくの宝は

渡辺真理子さん (元和泉市小学校教諭) の本

望は足がない、それだこのとや、という仲間たち。

あるがままを受け入れた、負けず嫌いの望くんの挑戦。

両親、先生たち、仲間たちの深く熱い思い。

小学校で担任した著者の、望くん成長のドキュメント。

渡辺真理子さん (ペンネーム：渡利 真) が本を出されました。泉北教組でも取り扱います。購入をご希望の方は、泉北教組まで。Tel.0725-41-1953 定価：本体1200円＋税